
2015年度 事業報告書

より良い 2016 年度を創りだすため



特定非営利活動法人
今治 NPO サポートセンター

2015 年度総括

NPOやボランティアをはじめとする様々な市民活動の情報・交流の拠点。当会が運営する「今治市民活動センター」の設置（2000（平成12）年）は全国的にみても先駆けでした。全国的にみると、2001（平成13）年から2003（平成15）年にかけて設置数が急増。愛媛県内では、松山市・新居浜市・四国中央市と年を追うごとに設置が進みました。こうしたエリアには、NPO法人の認証数の増加も呼応しています。今治市ではここ数年、島しょ部や山間部での活発な活動の様子が聞かれるようになりました。団体数の増加はもちろん、多彩な活動の様子がメディアなどを通して広く知られるようになり、市民活動に対する社会的な認知は深まりつつあります。

こうした活動拠点の整備は全国的にみるとひと段落していますが、愛媛県内ではここ数年、活発です。一昨年は、念願の南予エリアに「八幡浜みなと」が誕生。道の駅との複合施設として整備されました。今年度は西条市にオープン。商店街の一角に整備された拠点です。どちらも観光客や買い物客といった、不特定多数の来場者がある拠点の一部を活用しており、賑わい創出、空き店舗対策といったまちの課題解決の一端としても期待されています。市民活動に参加したことがない、興味がない市民との交流が生まれやすく、市民活動の担い手のすそ野拡大にも効果を発揮しそうです。地域性ある支援センターが生まれる中、当会が運営する「今治市民活動センター」は貸事務室機能を保有する点が独自性として認知されています。事務室入館団体の利便性を勘案しながらの運営を大切にしながら、多様なプログラムを提供できるよう、引き続き努めたいと感じています。

以下に2015年度の報告をまとめました。会員の皆様におかれましては、ご意見、ご批評をいただくとともに、引き続きセンターの事業をささえていただきたくお願い申し上げます。

目次

I	2015 年度総括	1
II	2015 年度事業報告	2
1.	今治市民活動センター管理運営事業	2
2.	その他の事業	16
3.	会議に関する事項について	19
III	2015 年度決算報告	20
IV	2016 年度事業及び予算	25
1.	2016 年度事業計画書	25
2.	2016 年度事業予算書	31

Ⅱ 2015 年度事業報告

1. 今治市民活動センター管理運営事業

(1) 施設の運營業務（使用調整、受付・案内業務など）

内容	<p>通年事業（月から土曜日 10 時～19 時開館） （事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時～18 時開館。平日 22 時まで開館）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸会議室の無料提供（登録団体に限る） ・機材の貸出 ・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出 ・貸事務所の効率的な運営
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは使用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。 ・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。
結果 課題	<p>会議室の利用者は 663 団体・4,146 人となった（H26 度；969 団体・5,932 人）。会議室及び交流スペースで使うことができる Wi-Fi 機能、作業スペースや作業資材の貸し出しなど、会議や事務作業がしやすい空間づくりを進めることができた。「思い立った時、すぐに集まりたい」、「手があいている時に気軽に作業したい」といった現場のニーズに寄り添い、湯茶の準備、無料で使える備品、予約システムの簡便性は使用者の好評を得ている。今年度は施設前の歩道拡張工事があり、長期間に渡り、使用者には不便を強いることとなった。また、整備に伴い、駐車場が狭くなり、使用者からは不満の声があがっている。譲り合っの駐車を促し、限られたスペースの中で、快適な使用ができるように尽力したい。</p> <p>貸事務所は、3 月末現在で 9 団体が入館しており、内 2 団体が 2 部屋を使用している状況である。事務所を持つことで活動の幅が広がるなど、その効果も生まれている。貸出の許可等の手続きが指定管理者に委譲され、簡易になり、入館団体には好評である。</p> <p>登録団体や市民ボランティアがセンター運営に参画して下さる機会も徐々に増えている。4 月には「ガールスカウト愛媛県第 2 団」「NPO 法人ナルク今治」による花壇への植栽活動、12 月には複数の団体によるセンター大掃除など、協力体制が構築できた。今後も施設の認知度を向上し、より多くの市民に足を運んでもらうことができるよう努めたい。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小部屋で使いやすい。部屋が分かれている。 ・台所があり、お茶の準備ができて良い。 ・個別で急でも利用できる。 ・掃除が行き届いていて気持ちがいい。館内が暗いのが気になる。 ・駐車場が狭い。駐車しにくい。 ・大会議室のエアコンが効きにくい。冬場はストーブを入れて欲しい。

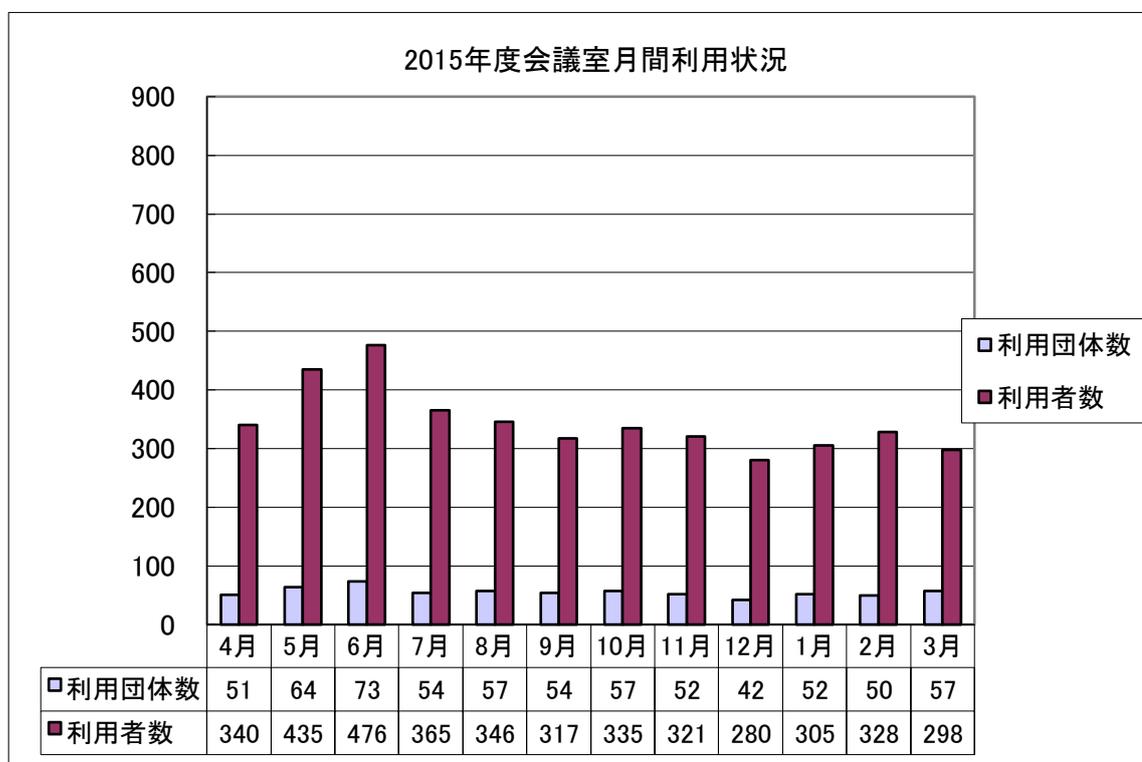


花壇への植栽活動。日常的な水やり等も担当いただけ、センターの美化向上にご尽力。

2015年度センター利用状況詳細

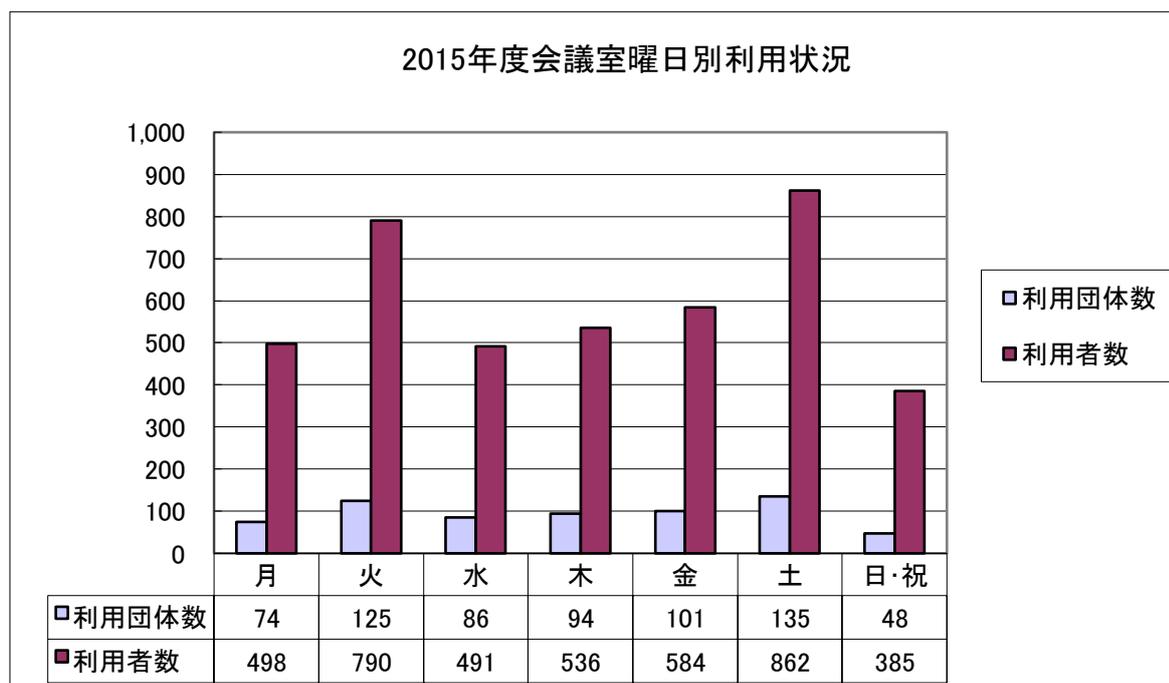
【センター利用状況(月間)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用団体数	51	64	73	54	57	54	57	52	42	52	50	57	663
利用者数	340	435	476	365	346	317	335	321	280	305	328	298	4,146



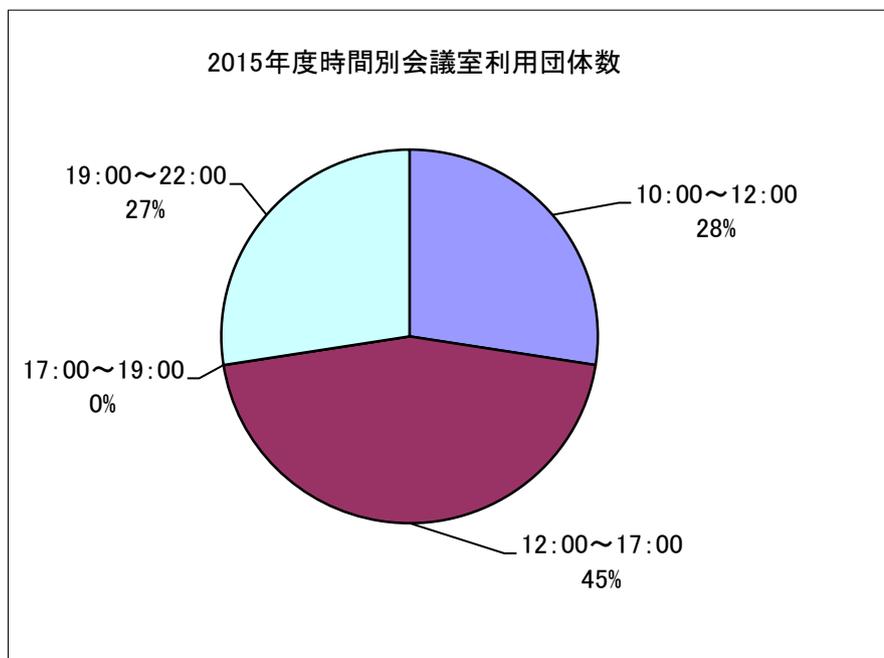
【センター利用状況(曜日別)】

	月	火	水	木	金	土	日・祝	合計
利用団体数	74	125	86	94	101	135	48	663
利用者数	498	790	491	536	584	862	385	4,146



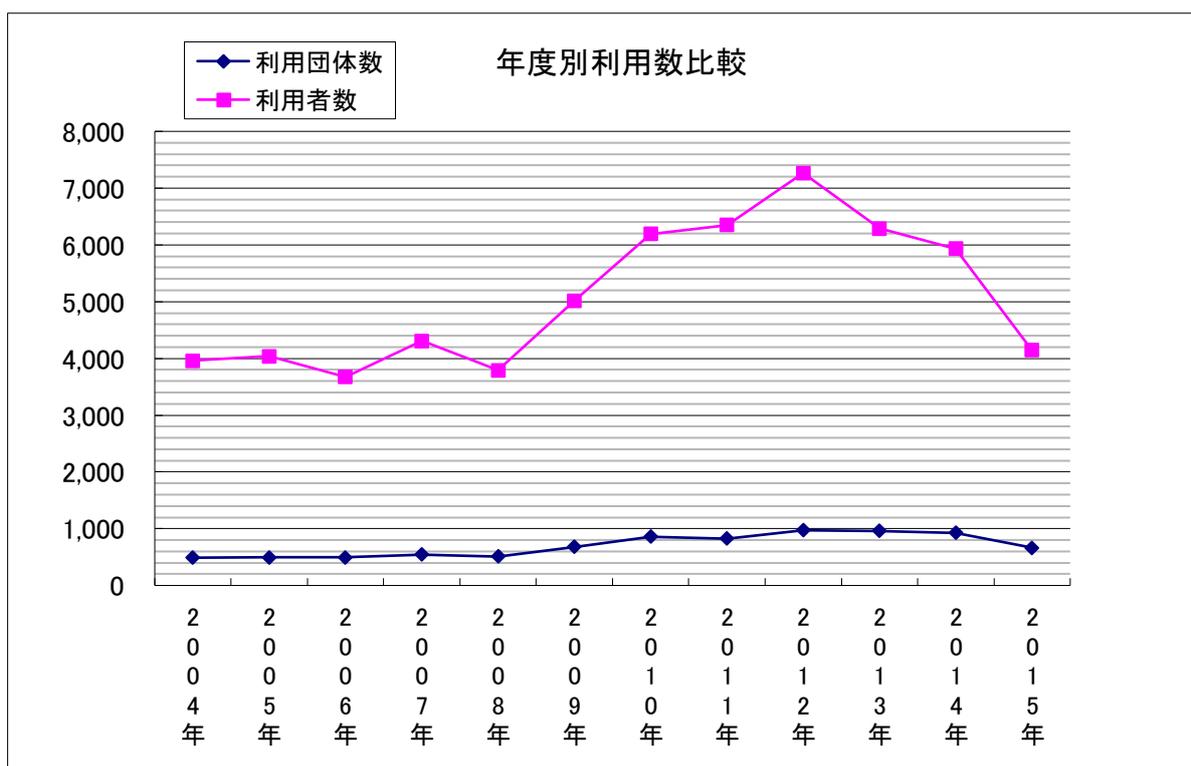
【時間別会議室利用団体数】

利用団体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10:00～12:00	14	15	16	18	19	14	19	16	11	17	14	16	189
12:00～17:00	23	31	33	27	25	25	23	23	20	23	21	24	298
17:00～19:00	0	3	0	1	0	0	0	2	0	1	4	0	11
19:00～22:00	14	15	24	8	13	15	15	11	11	11	11	17	165
合計	51	64	73	54	57	54	57	52	42	52	50	57	663



【年度別利用数比較】

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
利用団体数	489	492	496	543	510	682	862	828	972	960	929	663
利用者数	3,957	4,037	3,673	4,306	3,790	5,015	6,191	6,352	7,266	6,290	5,932	4,146



(会議室利用団体・利用者数の推移)

- 2015年度より、利用数のカウント方式が変更している。今期の減少はこのカウント方式の変更に伴うものである。
- 2012年度以降の利用数減少の主な理由は (※登録団体数は微減である)
 - ・事務室入館団体が自室で会議をするため、共用会議室の利用が減ったこと。
 - ・メンバー間の交流促進のために、カフェや居酒屋などで会議をする傾向が見られること。

(2) 市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務

<p>内容</p>	<p>地域活動に参加したい、社会貢献活動に興味がある etc そんな方々を地域の身近な活動現場にご案内する「NPO 現場体験ツアー」を開催した。</p> <p>(第1回) 平成 27年 6月 14日 (日) 12:00~14:30 参加者: 15名</p> <p>まちで目にする“共同作業所”という建物。住み慣れた地域で自立して豊かに暮らしたい。そんなあたり前の願いを応援する障がい者が働く場だ。ここで展開されるものづくり。「工賃倍増計画」のスローガンが飛び交う中、関係者の思いは複雑、そして願いは深い。「幸せ」「やりがい」を地域との交流の中で見出す現場を見学した。</p> <p>「外部とのつながりを作っていきたい」という思いから、本来、お休みの日曜日にご案内いただいたのは「作業所こまどり」。関わる職員の願い、利用者が実際に働く現場での生きた交流が育まれた貴重な機会となった。</p> <p style="text-align: right;">平成 27年 6月 20日 愛媛新聞▶</p> <p>(参加者の声)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業所の中に響く音がとても心地よかった。「カタカタ」という機織りのリズムはゆっくりしていて、商品イメージと重なった。 ・何となくいいな…と思っていた手づくり品。量産とは違うあたたかみが生まれる意味がわかった。 ・福祉作業所に行くことはそれだけでハードルがある。交流を望んでいることを知ることができ、印象が変わった。 ・羊から飼っている様子や製品への思いについて、売り手や売り場で伝えるしかけが大切だと思った。
-----------	--



▲羊牧場から見学。素材へのこだわりは飼育にも及ぶ。



▲糸を紡ぐ体験。工房にある機器はどこか温かい。ゆっくりした時間が流れる。



▲素材・材料づくりから取り組む7人の利用者。製品は彼らの作品のよう。

「商品を作ることは、活躍する姿をもっと話した。7人の喜びになってい」と知ってもらえれば」 (山岡雄大)

(第2回) 平成27年8月29日(土) 14:00~20:00 参加者:7名
 城下町として栄えた今治の風情を残す象徴的なスポット「寺町通り」のイベントに参加して、ボランティアの現場を体感するツアーを開催した。このエリアを市民参加型で盛り上げる「にぎわいフォーラム」のメンバーから、まちへの思いを聞き、一緒にイベントのボランティアとして、活動した。

(参加者の声)

- ・寺町という地名の由来をはじめて聞き、勉強になった。
- ・イベントの準備のために、朝早くから準備していたことを聞き、支える人があってこそ、楽しい催しができていることを実感した。
- ・イベントを手伝うというより、お寺の催し(ジャズなど)に参加でき、とても有意義な時間を過ごせた。
- ・雨の中でも多くの方が散策してくれていて、定着していると感じた。

(第3回) 平成27年11月15日(土) 13:00~15:00 参加者:10名

鈍川地区都市農村共生・対流協議会が行う「稲わらアート」の現場見学ツアーを開催した。地域の風景にマッチしたアート作品には続々と見学者が訪れる。1万5千人以上が訪れる現象への手ごたえとは裏腹に、集落存続への高い危機感、持続的に地域活動に取り組む苦労話が印象に残った。鈍川温泉郷、朝倉タオル美術館という年間30万人の集客施設を結ぶ地理性をいかした活性化、増える空き家を活用しての移住者の呼び込みなど、具体的な道筋を語るキーマンのUターン者、さらにそれを斬新な発想と高いスキルで支える新規移住者の存在に完成を感じた。



▲移住者の方に手作りしてもらった看板を前に語る越智さん。



▲深い山に囲まれた棚田。この地区の象徴的な場所。

対象	市民活動に関心のある一般市民(高校生中心)
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の固定化、高齢化などの課題を抱える団体が多い中、市民活動未経験層が現場体験できるプロジェクトとした。 ・ボランティアの参加を希望する団体をピックアップして、活動希望者とのマッチングに資する活動となるよう工夫した。 ・「市民が共におこすまちづくり事業補助事業」を行う団体にはヒアリングをして、現場のニーズを確認してのプログラム立案を行った。
結果課題	<p>賑わい創出、移住促進、商品づくりなど、人口減少のまちが抱える課題に市民が真剣に向き合う現場を見学できた。活動への認知度はまだまだ低く、こうした活動への理解者、参加者を増やすことの必要性を感じた。人材、資金の獲得も必須で、そのため求められる団体の信頼性向上、適切な情報開示を支援したいと感じた。今後、学生インターンの受け入れ、社会人が仕事の延長線上で手伝える機会構築など、多様な世代が活動とつながる支援ができることを目指したい。</p>

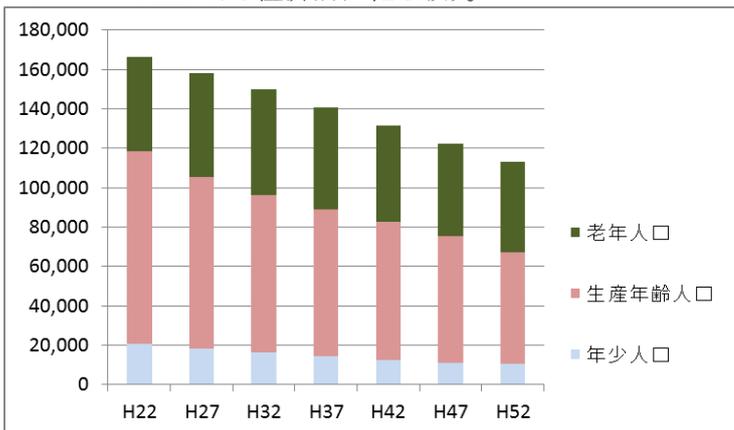
夢サラダ Vol.58

2015.7.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非) 今治NPOサポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234
E-mail imanpo@nifty.com

今治市の未来は

”地方創生”というキーワードを耳にする機会が増えた。直面する人口急減・超高齢化という課題に対し、それぞれの地域の特徴をいかした具体的な取り組みに対して、政府が支援する検討が進む。今治市の人口減少率も待たなしの状態だ。「自治体消滅」という危機を孕んだ自治体としても位置づけられた(20~39歳の若年女性の減少率による「日本創生会議人口減少問題分科会」)。「働く場」をつくることももちろん大事だが、同時に「働き方」や「暮らし方」を考えたい。高度経済成長の陰で格差が広がり、生きづらさを抱える人が増えてきた現実がある。生産力や競争力のみならず、注力せず、風土を守り、つながりを大切にしたい豊かな暮らしのベースの上にある経済活性化を願う。



▲平成 52 年の人口予測は 113,000 人(52,000 人減)。生産年齢人口:50.3%(5.7%減)、老年人口:40.4%(8.2%増)。経済社会に大きな負荷となる。* ()は平成 27 年比。
(国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所)

NPO が暮らしを支える

財政の逼迫も進む中、地域活性化の担い手として、多様なセクターが一致団結することが重要だ。これまで、社会づくりの担い手として活動してきた NPO も、その果たすべき役割を改めて考えたい。今治市には、現在 43 の NPO 法人が活動している。その活動分野は様々で、ボランティアをベースにした活動から、有償で社会的サービスや商品の提供を行なう事業型 NPO も活躍する。地域が抱える課題が複雑化・深刻化する中、ニーズに応じた多種多様なサービスが存在することが不可欠だ。主体的に活動する NPO がバリエティあふれるサービスを提供し、それを自由に選択し、享受できるようになれば、暮らしの質がぐっとあがる。

No.	活動分野	数	%	No.	活動分野	数	%
1	保健・医療・福祉	34	15.4	11	国際協力	8	3.6
2	社会教育	12	5.4	12	男女共同参画	6	2.7
3	まちづくり	27	12.2	13	子ども健全育成	21	9.5
4	観光	6	2.7	14	情報化社会発展	4	1.8
5	農山漁村等	8	3.6	15	科学技術	1	0.5
6	文化・スポーツ等	15	6.8	16	経済活動	15	6.8
7	環境保全	16	7.3	17	職業能力開発等	14	6.3
8	災害救援	4	1.8	18	消費者保護	3	1.4
9	地域安全	4	1.8	19	団体運営助言等	14	6.3
10	人権擁護・平和	9	4.1	20	条例等で定める活動	0	0

(今治市内 NPO 団体 分野別登録数 ※分野名は省略しています)

ただ、現実的には「こころざし」は高くとも、慢性的な人材・資金不足に陥るなど、組織運営上の課題に直面する NPO が多い。結果、個々の試行は局地的になり、地域の課題を解決するビジョンが描くにくい。支え手を増やし、連携を深めねば……。急増する団塊の世代の退職者や子育てで離職した主婦層が地域で活動できる状況がある。また、社会的使命を感じた若者が、地域活動に参加したり、社会的ビジネスを創業したりする意欲を聞く。こうした人々とフラットに対話ができる場づくりが必要だ。そんな思いで毎年行っている「NPO 現場体験ツアー」がある。“地方創生”が叫ばれる今期、NPO の現場にも眠っているアイデアがあるはずだ。ライフスタイルの多様化に対応した新しいビジネス、中長期滞在や移住などの人口減少に歯止めをかける取り組みの現場をのぞいてみたい。



まちで目にする“共同作業所”という建物。住み慣れた地域で自立して豊かに暮らしたい。そんなあたり前の願いを応援する障がい者が働く場だ。ここで展開されるものづくり。「工賃倍増計画」のスローガンが飛び交う中、関係者の思いは複雑、そして願いは深い。「幸せ」「やりがい」を地域との交流の中で見出す現場には、真の“地方創生”のビジョンが凝縮されていた。

⇒裏面へ続く

NPO 現場体験ツアー 福祉作業所ものづくり最前線

地域活動に参加したい、社会貢献活動に興味がある etc そんな方々を地域の身近な活動現場にご案内する「NPO 現場体験ツアー」。今治市内の学生の皆さんに数多く参加いただいていた。今年度、第1回目となるツアーは、福祉作業所の現場に突入。「外部とのつながりを作っていきたい」という思いから、本来、お休みの日曜日にご案内いただいたのは「作業所こまどり」。関わる職員の願い、利用者が実際に働く現場での生きた交流が育まれた貴重な機会となった。



非効率の中にある価値
見学会参加者はワッペンづくりにチャレンジ。羊の毛を使った、オリジナル作品づくりに夢中になった。



▲「こまどり工房」のコンセプト。
草と木と布と・・・。



必要な第三者のチカラ

とは言え、「工賃もあがりました」補足しながら販路についても教えてくれた。ここに外部の力は大きいという。「こんな商品が欲しい」と持ち込んでくれるパートナーは地域にいる。「素材はあっても、商品開発の具体的なアイデアはないので・・・」と菅さん。「こまどり工房」の商品を扱うある施設から「つくる度に品質があがって納品される」、そんな評価を聞いた。売り手や市場と対話ができるコミュニティの中で、商品のクオリティへの期待感を直に受けている強みがありそうだ。

実際、内部にデザイナーや専門家はいない。「好きこそ物の上手なれ」か、ここまでくれば職人技。積み上げてきた技術と経験の蓄積力は大きい。さらに、商品開発へのチャレンジ精神はかなりフレキシブルだ。「もっと若い人達が担い手だと思った」、視察での訪問者に投げかけられた一言があるそう。象徴的なエピソードに聞こえた。最後に今後の目標を聞いてみた。「自分たちにできることをしていくだけ。地域とのつながりが一番大切。やっぱり人ですから」と。生きるように働く空間からできあがる「こまどり工房」の商品を手にとってみては。



▲珍しい「くず布」の織り物。菊間の森でとれる「くず」を紡いでいる。手に取ると輝く光沢がある。何度もたたいて出る風合い。

▲飼育から手がけているのが「ケナフ」。できあがった糸を横糸に、縦糸には今治タオルを織り込み「ボディタオル」ができあがる。



参加者の声

☆作業所の中に響く音がとても心地よかった。「カタカタ」という機織りのリズムはゆっくりしていて、商品イメージと重なった。
☆何となくいいな...と思っていた手づくり品。量産とは違うあたたかみが生まれる意味がわかった。
☆福祉作業所に行くことはそれだけでハードルがある。交流を望んでいることを知ることができ、印象が変わった。
☆羊から飼っている様子や製品への思いについて、売り手や売り場で伝えるしかけが大切だと思った。



「この1枚ができるまで何ヶ月もかかる。効率を求めているは良いものは生まれにくい。ものづくりにかける信念が伝わる。「量産しないと、工賃があがらないのでは・・・」と投げかけてみた。「ここに来る子（利用者）達はそれぞれ個性がある。障害者自立支援法（※1）により、障がい者をひとくくりにし、ここで活動をする価値を全て、工賃におきかえようとしているように思えた。悩みました…」制度移行の時期に渦巻いていた葛藤が伺えた。実際、量産とは対極の現場だ。ニーズがあり売り切れてしまう商品もあるが、無理はしない、させられない。

「ここにあるのは暮らし。リズムがある。」その言葉から、やりがいや幸せを感じる働き方のセオリーを感じた。改めて「仕事」について考えさせられた。「地方創生」のスローガンのもと、目指される「雇用」。ただ、地方に求めるものは「仕事（賃金）」というよりは「働き方」ではないか...と。ここ数年、「こまどり工房」の商品は注目度を増している。大量生産はできないが、プレゼントで買ってください方、出来上がりを予約して待つくださる方とファンは多い。利用者も職員も一緒に過ごし、一緒に作業する。そんな空間・時間から生まれる商品を求める市場からも、「働き方」、いや「暮らし方」に重きを置く価値観が感じられる。



身近にあった小規模作業所のいま

法律により日中活動の場は、①就労継続支援、②就労移行支援、③自立訓練、④生活介護、⑤療養介護（国の事業）と⑥地域活動支援事業（市町の事業）に再編された。従来の小規模作業所は、利用者数の問題や場所の確保の問題を抱えながら、平成17年の法律施行から、ここ5年の間に、新たな事業に移行してきた。日中活動の場と生活の場を分離し、地域の中での暮らしを応援することが基本となっている。身近なところに多様なサービスが存在することが求められ、例えば、空き家の活用などを視野に入れた規制緩和、働く意欲を支援する雇用とのマッチングなどが目指される。



こだわりのものづくり

一步、踏み込むとそこは「おもちゃ箱」のよう。ところ狭し並ぶカラフルな綿糸に織り機。糸を紡いでいた青年が「こんにちは」と声をかけてくれた。ここは緑豊かな自然に囲まれた郊外にある「作業所こまどり」。平成15年に設立した小さな作業所だ（平成23年にNPO法人化）。利用者は7名。手織りの布製品、木工細工などの製品をつくる工房だ。「ただ織りが好きで、おもしろくて。一つの作品が完成するまでの工程にはたくさんの学びがある。この子（利用者）達にそれを知って欲しい。」理事長の松田鈴美さん、現場を切り盛りする菅まりさんはものづくりに取り組む意義を語ってくれた。



▲糸を紡ぐ工程を教える 菅さん。奥の女性が松田理事長。



準備された作業をただこなすのではなく、綿ができ、糸にかわる過程。色合いや風合いの変化を感じると人間活動である。素材に出会う中で季節を感じ、一つの製品をコツコツ仕上げの中で達成感を得る。ものづくりは人の心を豊かに成長させてくれる。この精神は年々高まり、平成21年からは、なんと羊を飼うところから始めてしまった。完成したフェルトマフラーを手にとってみた。何ともやさしい感触。「この毛は“ハルちゃん”の毛ね」ハルちゃんとは羊の名前である。牧場で出会った愛らしい一頭の羊の顔を思い浮かべ、思わず笑顔になった。

障害者自立支援法

障がいの有無にかかわらず、地域で安心して日常生活や社会生活を営むことができることを目的に施行された法律。問題となっていた地域間のサービス格差、障がいの種別間の格差などを是正しようと、各種福祉サービスを一元的に、「保護」から「自立」に向けた支援に舵をとった。従来の制度と比較して、継続的な医療費の自己負担比率は、5%から10%に倍増した。高齢化社会に向け、増加し続ける医療費の財源確保は大きな課題であり、福祉サービス等の費用を皆で負担し合う仕組みに強化した形だ。同時に国が補助していた在宅サービスも含め、国が義務的に負担する仕組みに改めた。

(3) 機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	「夢サラダ」(年間2回)、「得夢サラダ」(年間12回)を編集、発行した。また、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えようと、「夢サラダ」配布場所を開拓した。
対象	市民活動団体・一般
手法	・活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。 ・ホームページでも情報を伝えた。
結果 課題	市民活動団体 103 団体、施設・機関 33 箇所に配布した。配布部数は毎月冊子 1976 部、掲示用 344 部となった。身近な地域の魅力を伝える誌面構成としたことで、市民活動経験のない方にも読みやすいとの意見をいただいた。掲載内容は、本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえるよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓に取り組んでいきたい。

(4) 市民活動団体相互の交流推進業務

◆使用者協議会

平成 27 年 4 月 22 日 (水) 10:00~11:30 参加者: 10 名

事務室使用団体、会議室使用者と合同でセンター防火・避難訓練を行い、その後、今年度のセンター事業の企画内容を説明し、使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。施設の設備についての改善、使用時のマナーについての意見が出された。また、使用者は互いの活動を報告しあい、助け合って事業推進したいとの意見が出された。



平成 27 年 12 月 22 日 (火) 11:00~12:00 参加者: 15 名

センター使用者によるセンター大掃除を行い、その後、センターの管理運営業務などについて使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。廊下の絨毯の劣化が激しい部分があり、修繕を求める声があった。会議室、事務室共に、使用上の改善要望などはなかった。各団体から近況報告があり、情報交換していた。



対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市内の団体の活動紹介の場とする。 ・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとする。 ・センターの使用に主体的に関わっていただけるよう依頼する機会とした。施設・設備、備品などのハード整備の優先順位、講座などのソフト支援の重要事案などへの共通認識構築の場とする。
結果課題	「使用者協議会」の位置づけで、センター事業を話し合う機会となった。会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるよう、協議の場を有意義なものにしていきたい。

(5) ボランティアコーディネート業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。 ・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。
結果課題	年間128件のコーディネーションを行った。ボランティア活動の経験がない方には来館、聞き取り、活動の斡旋を丁寧に行った。定年退職後の自由な時間を活用し、ボランティア活動をはじめたい人に主体的・自発的に取り組んでいただける活動を発掘し、紹介した。夏休み、春休みは学生のボランティア活動希望者の相談が多く、多様な分野・テーマの活動を紹介し、受給調整を行った。一人ひとりがまちを構成する重要な一員であることを自覚できる活動を調整する大切さを感じた。

(6) 相談業務

内容	団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。4年目となる支所単位での「出張相談会」は、相談件数は4件と少ないながら、今治市陸地部にある本センターには足を運びにくい島嶼部を中心に好評だったことを受け、今年度も島嶼部4島・6か所で開催した。
対象	市民団体・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。 ・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源（地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織）を活用し、支援を行う。 ・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。

結果 課題	<p>団体設立や運営など、132件の相談に電話・メール・来所にて対応した。ボランティア団体を立ち上げたい個人、グループからNPO法人設立・運営相談が寄せられるほか、広報相談、ネットワーク構築相談など多岐にわたる相談が寄せられた。相談に応えるだけでなく、相談者の次のニーズをコミュニケーションの中で引き出し、対応するよう配慮した。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても親切に対応してくれる。 ・優しく、丁寧で助かる。 ・休みの日や夜間なども相談対応いただけて助かる。 <p>■出張相談会■</p> <p>広域合併した今治市において、周辺地域にお住まいの方にも、地域の人々の支え合い活動、社会サービスの提供などについて、気軽に相談する機会をつくることを目的に開催。昨年に続き、島嶼部に限定して自発的な市民活動の促進、担い手育成を目指し、開催した。空き施設の活用、賑わい創出をテーマにした相談が寄せられ、仲間を募ってのグループづくり、プログラム立案の助言などを行うことができた。出張相談の機会は各エリア1回のため、その後は電話やメールなどで相談を受けたり、センターに足を運んでいただいたりして継続的に情報提供することができた。</p> <table border="0"> <tr> <td>宮窪会場</td> <td>6月25日(木)</td> <td>10:00~12:00</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>吉海会場</td> <td>6月25日(木)</td> <td>13:30~15:30</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>伯方会場</td> <td>7月10日(金)</td> <td>10:00~12:00</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>大三島会場</td> <td>7月2日(木)</td> <td>10:00~12:00</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>上浦会場</td> <td>7月2日(木)</td> <td>13:30~15:30</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>関前会場</td> <td>7月3日(金)</td> <td>10:00~12:00</td> <td>0件</td> </tr> </table>	宮窪会場	6月25日(木)	10:00~12:00	2件	吉海会場	6月25日(木)	13:30~15:30	0件	伯方会場	7月10日(金)	10:00~12:00	1件	大三島会場	7月2日(木)	10:00~12:00	2件	上浦会場	7月2日(木)	13:30~15:30	1件	関前会場	7月3日(金)	10:00~12:00	0件
宮窪会場	6月25日(木)	10:00~12:00	2件																						
吉海会場	6月25日(木)	13:30~15:30	0件																						
伯方会場	7月10日(金)	10:00~12:00	1件																						
大三島会場	7月2日(木)	10:00~12:00	2件																						
上浦会場	7月2日(木)	13:30~15:30	1件																						
関前会場	7月3日(金)	10:00~12:00	0件																						

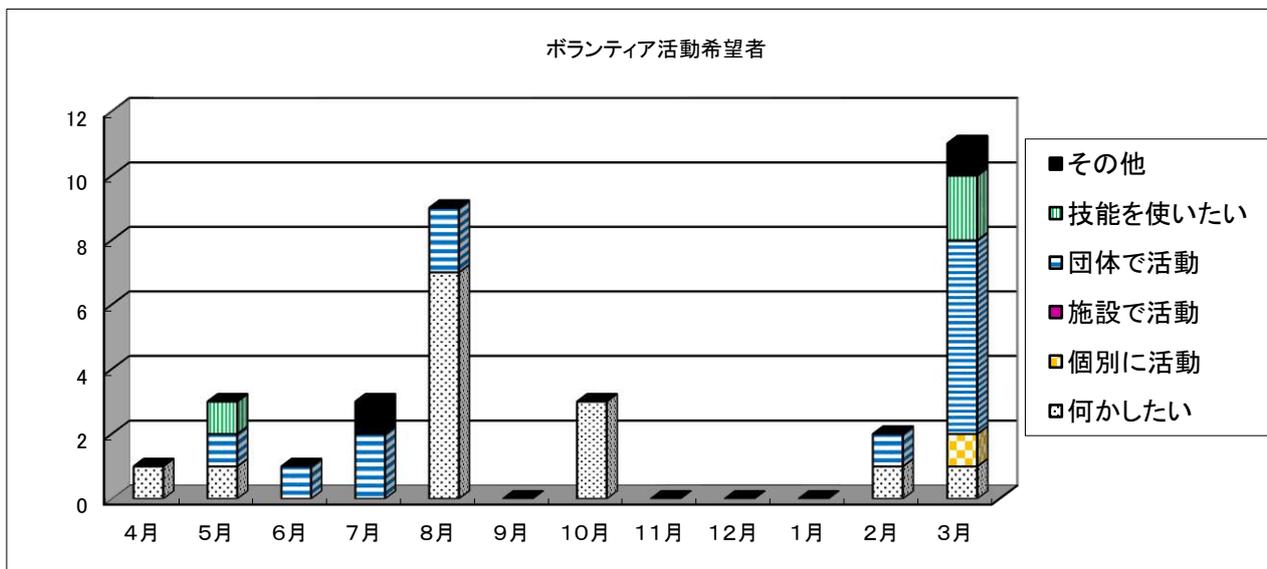
(7) まちづくりサポーター業務

内容	仕事や趣味などを通じて得た知識、経験や技術を、まちづくりのための様々な場所や場面にいかしていただけるよう斡旋・紹介を行う。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりサポーターとして活動できる組織・個人を登録し、HPで紹介する。 ・団体が内部の人材では解決できないことがある場合、斡旋する。
結果 課題	ボランティア活動希望者が相談に訪れた際、希望の活動やいかしたいスキルを発揮できる活動がない場合には、まずはサポーターとして登録いただき、マッチングの機会を伺った。イベント開催時に、コーディネーションをする等、個別のニーズを汲んだ橋渡しをすることができた。

コーディネート状況詳細

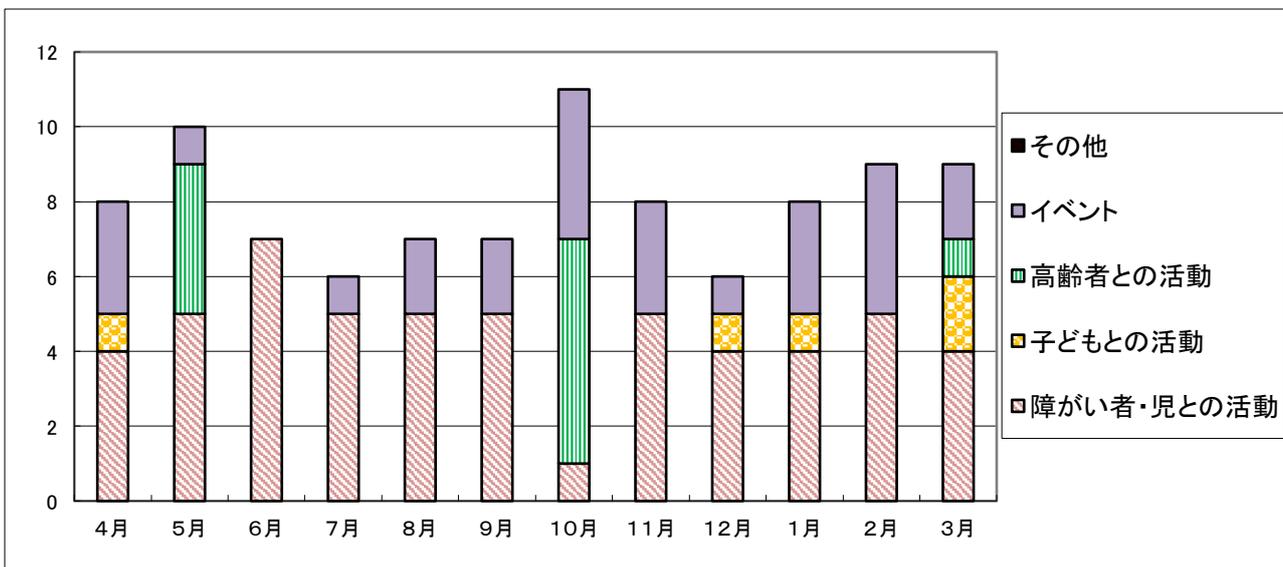
①ボランティア活動希望者

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
何かしたい	1	1	0	0	7	0	3	0	0	0	1	1	14
個別に活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
施設で活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
団体で活動	0	1	1	2	2	0	0	0	0	0	1	6	13
技能を使いたい	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
合計	1	3	1	3	9	0	3	0	0	0	2	11	33



②ボランティアを受け入れたい組織・個人

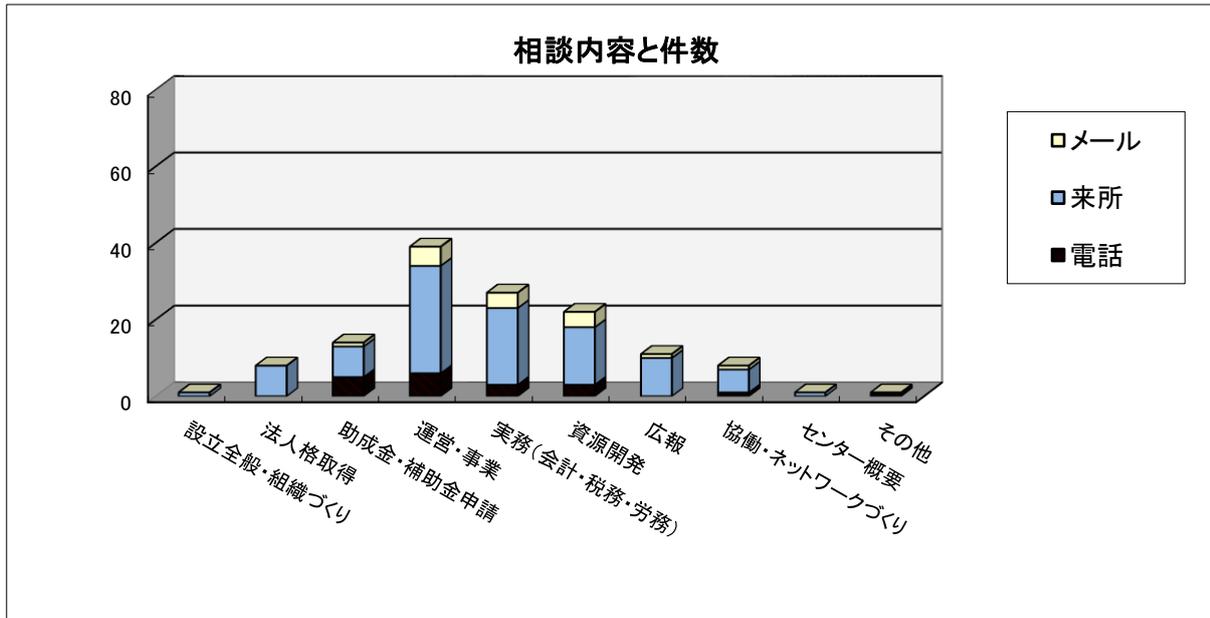
ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
障がい者・児との活動	4	5	7	5	5	5	1	5	4	4	5	4	54
子どもとの活動	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	5
高齢者との活動	0	4	0	0	0	0	6	0	0	0	0	1	11
イベント	3	1	0	1	2	2	4	3	1	3	4	2	26
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	10	7	6	7	7	11	8	6	8	9	9	96



相談状況詳細

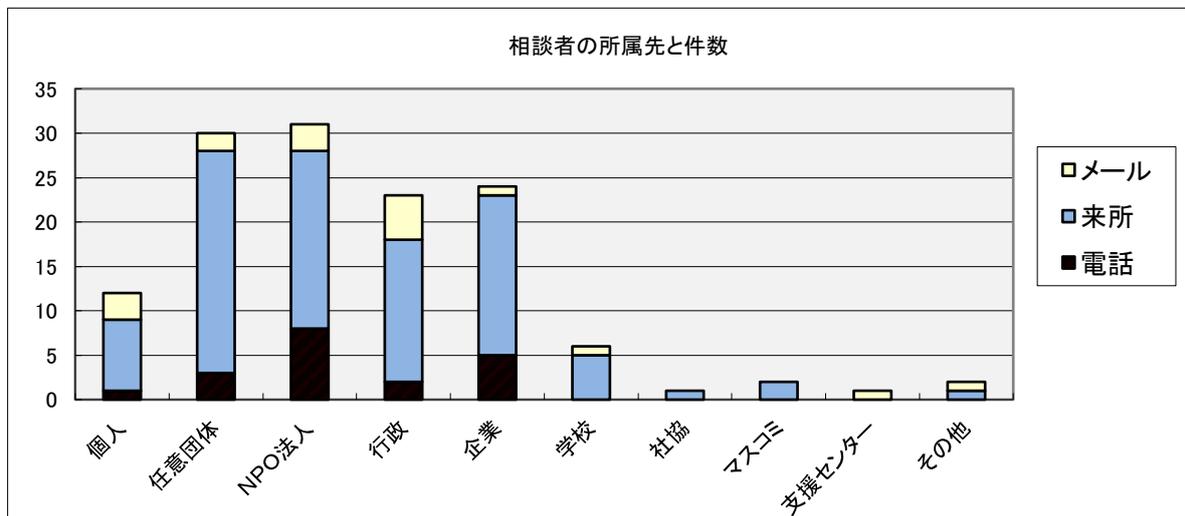
【相談内容と件数】

	電話	来所	メール	合計
設立全般・組織づくり	0	1	0	1
法人格取得	0	8	0	8
助成金・補助金申請	5	8	1	14
運営・事業	6	28	5	39
実務(会計・税務・労務)	3	20	4	27
資源開発	3	15	4	22
広報	0	10	1	11
協働・ネットワークづくり	1	6	1	8
センター概要	0	1	0	1
その他	1	0	0	1
合計	19	97	16	132



【相談者の所属先と件数】

	電話	来所	メール	合計
個人	1	8	3	12
任意団体	3	25	2	30
NPO法人	8	20	3	31
行政	2	16	5	23
企業	5	18	1	24
学校	0	5	1	6
社協	0	1	0	1
マスコミ	0	2	0	2
支援センター	0	0	1	1
その他	0	1	1	2
合計	19	96	17	132



●参考資料②●

来館者アンケート

【方 法】 アンケート用紙 配布

【期 間】 2016(平成28)年1月～2月

【対象者】 「今治市民活動センター」来館者、使用者

「今治市民活動センター」について日ごろ感じていることがあればお書きください。

① 施設(建物)、設備・備品

< 良い点 >

- ・場所が便利。立地がよい。(3)
- ・駐車場がある。(2)
- ・会議室が使いやすい。(6)
- ・小部屋で使いやすい。部屋が分かれている。(2)
- ・コンパクトで便利になっている。
- ・大きすぎず、狭すぎず、使いやすい。
- ・少人数でも使いやすい。
- ・設備が使いやすい。
- ・コンピューターを使わせてくれる。
- ・印刷設備がある。
- ・コピー機が速くできる。良質のコピー機である。(2)
- ・ホワイトボードがある。
- ・お茶の支度ができる。
- ・湯沸かし器があって良い。
- ・電気ポットを利用できる。(6)
- ・細部に行き届きありがたい。(ポット、カップ等)
- ・ポット、コーヒーカップ等、使えるようにしてくれている。
- ・冷暖房がある。冷暖房完備もありがたい。(6)
- ・作業に集中できる。
- ・使用料が安い。(2)
- ・会議室が無料。
- ・気持ちよく使わせてもらっている。
- ・いつも利用できて助かる。(2)
- ・日曜日でも利用できるのが良い。
- ・掃除が行き届いている。掃除ができていて気持ちよく作業できる。(3)
- ・建物が古いので大変だが、掃除がきれいにされている。
- ・清潔である。特にトイレ。(2)
- ・良い。とても良い。(3)
- ・これ以上欲は言えない。

< 悪い点・改善点 >

- ・駐車場が狭い。(8)
- ・駐車場が入りにくい。(2)
- ・駐車場の工夫(止め方)、車の位置に一考ある。(3)
- ・駐車場の白線を強化してほしい。
- ・道路からの出入り口が判りにくい。
- ・自動ドアのレールが不十分。
- ・元浴室のスペースが使いにくい。
- ・炊事場、トイレに段差がある。
- ・トイレが高齢者・障害者・足の悪い方にはバリアフリーではない。多目的トイレが必要。
- ・トイレを洋式にしてほしい。(3)
- ・1階のトイレが和式。
- ・大会議室の奥がオープンで、よその音が聞こえる。
- ・冷暖房を少し良くしてほしい。
- ・空調にお金がいる。
- ・寒い。
- ・暖房が利かない。(3)
- ・電気ストーブがあれば…。大会議室の後ろが寒い。
- ・2F 中会議室に壊れかけの座りにくい椅子がある。(2)
- ・電灯が暗い。
- ・部屋の電気が暗い。
- ・部屋が変な臭いがする。(2)
- ・コピー機の扱い方が不便。常々使う用事がないので教えてもらっても忘れてしまう。
- ・100 円位でコーヒーを自由に飲めると良い。
- ・建物が老朽化している。(2)
- ・古いなりに外壁だけでも塗装しては。

② 講座・交流会などの企画

< 良い点 >

- ・ほかのボランティア活動がわかる。
- ・たくさん企画していただいている。
- ・良い企画あれど、度々参加できない。なかなか参加できない。(3)
- ・自分たちの会の活動で一杯。このままで良い。
- ・使用者全体の会合が年2回ある。

< 悪い点・改善点 >

- ・団体同士の交流会が欲しい。(2)
- ・情報がよく分からない。知らない。(2)
- ・玄関などに活動を分かるよう告知しては。

③ スタッフの対応

< 良い点 >

- ・そつがない。
- ・的確である。
- ・親切、丁寧。(16)
- ・穏やかで親切。
- ・何気なくフレンドリー。話しやすい。(3)
- ・気持ち良い対応。(14)
- ・気持ちよく挨拶、対応してくださり感謝している。
- ・優しく接してくれている。(5)
- ・感じが良い。(2)
- ・いつも明るい対応。さわやかな対応。(3)

- ・電話の対応もよい。
- ・親切・指導もお願いできる。
- ・コピー機等の説明を親切に教えてくれた。
- ・集合写真を頼むと気持ちよくしていただく。
- ・急な利用願いいにも拘らず受けてもらえて助かる。

< 悪い点・改善点 >

- ・常駐場所を入り口にしては。
- ・奥に居ては分からない。

「今治市民活動センター」に臨むことをお聞かせください。(望むサービス、工夫してほしい事業など)

- ・駐車場がとめにくくなった。(5)
- ・駐車場で建物入口近くはとめにくいので、斜めにとめるようにしてほしい。
- ・駐車場の整備。出入りが困難なことがある。
- ・駐車場のライン引き等、効率的な配置(台数確保のため)を望む。
- ・もう少し広い駐車場が欲しい。
- ・トイレ等の水回りの掃除をもっときちんとしてほしい。
- ・わかりやすい場所に洋式トイレを。
- ・トイレを男女別にしてほしい。(3)
- ・コピー機の操作が複雑。
- ・自動販売機を置いてほしい。(3)
- ・今日の催しを玄関に提示(場所も)。
- ・利用者同士の「会」があると良い。
- ・光熱水費を安くしてほしい。電気代だけになりませんか？
- ・会場を借りることが出来るととてもありがたい。今後ともどうぞよろしくお願いします。
- ・会議室が無料なのが嬉しい。
- ・毎月利用させていただきありがとうございます。
- ・いつも大変助かっている。
- ・利用させていただき感謝しています。
- ・現状でありがたいと思う。
- ・このままで良いと思う。
- ・古いけどきれいにしているのでありがたい。

2. その他の事業

(1) 情報提供事業

①トークカフェ in ラヂオバリバリ

期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

協力：エフエムラヂオバリバリ

地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ放送を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週 1 回に発信した。

今年度は、草の根活動の動きを大きなチカラにしていくために、ラジオを通して人と人の交流を深める趣旨で展開した。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業)様々な分野の活動規模も多様な団体が、ラジオというメディアを通して、広報活動を展開する場となった。日々の暮らしの中で感じる些細な気づきをもとに、身近な仲間たちの小さなグループからはじまる様子が伝えられた点、少人数ながら思いや責任感や役割を分担し、地域に根ざして活動する様子などは、活動未経験者へ大きなメッセージとなった。一方、こうした活動が事業を継続したり、拡充したりする力が不十分な点も見え、今後、一つ一つの活動が成熟した市民社会実現を目指す大きな広がりになるよう、人的交流や相互連携を生み出していくしくみの構築を感じた。今後は、事例等の共有をより有意義に進められたり、活動に必要なしくみを学んだりできるような展開を考えたい。

②ホームページの運営

期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネーション業務にも役立った。また、「今治市民活動センター」事業である「まちづくりサポーター」の制度紹介のページを設けた。サービスを提供したい個人・団体の紹介を発信した。NPO 等、ボランティアの応援を求める組織のニーズ紹介等を充実させることが課題である。

(2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 27 年 8 月 10 日 9 月 28 日 1 月 29 日	今治市廃棄物減量等推進審議会 (今治市)	平成 30 年 4 月からの新しいごみ処理施設稼働を念頭に、ごみの減量化及び資源化を推進する施策検討。
平成 27 年 8 月 6 日 10 月 15 日	今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会	今治市人口ビジョンおよび今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係る意見集約、提言。
平成 27 年 5 月 21 日 平成 28 年 2 月 10 日	中間支援組織ネットワーク会議 (愛媛県)	多様な主体による協働環境整備を目指し、県内の中間支援組織や助成団体の情報共有のために開催。

平成 28 年 3 月 29 日	今治市定住自立圏共生ビジョン懇談会（今治市） 専門委員委嘱	広域合併した今治市のビジョン懇談において、市民活動・ボランティア推進への意見集約
平成 28 年 3 月 22 日	地（知）の拠点整備事業 第三者評価委員委嘱 （今治明德短期大学）	地域の学びの拠点として整備を進める事業の外部評価を担当。文部科学省事業。

（３）講師派遣事業

依頼に基づき、講師を派遣しました。

日時	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 27 年 6 月 7 日	特定非営利活動法人ナルク今治 総会（特非 ナルク今治）	助け合いの輪を広げるしくみ「ナルク」の今治支部の総会での意見交換への参加。
平成 27 年 10 月 25 日	第 9 回今治タオル体操コンテスト （今治タオル体操愛好会）	地場産品・今治タオルの普及を目指した、タオル体操のコンテストの審査員を担当。
平成 27 年 10 月 31 日	今治明德短期大学 C O C 事業シン ポジウム（今治明德短期大学）	地域と共に地域を考える学生生活動へのコメンテーターを担当。

（４）共同開催事業

①東日本大震災被災地ボランティア活動

2012 年度から取り組んでいる「東日本復興支援ボランティアバス」のプロジェクトは、今年度よりコンソーシアム形式の組織「チーム今治」として改変した取り組みに移行した。復興という目標を真ん中におき、複数の団体が主体的に参画しながらの柔軟な運行により、現地のニーズに合致した活動を展開した。

被災地での活動

[第 2 回：宮城県名取市]

東日本大震災の津波で 700 人以上が亡くなった宮城県名取市閑上（ゆりあげ）地区を訪問した。仮設住宅から転居し、逆につながりを持ちにくくなった高齢者のサロン、福島からの転校も多い新設の小学校での交流活動を行った。また、追悼式や遺族が主催する絵画展などにも足を運び、東日本大震災から 5 年たった今、改めて被災地の声を聴く意義ある訪問活動となった。語り継ぐ大切さ、拡がる追悼の念など、被災地の現状を伝え続けたいとの使命を持った。

日程：平成 28 年 3 月 10 日（木）9：00 頃 今治出発

平成 28 年 3 月 10 日（木）～12 日（土）現地活動

平成 28 年 3 月 13 日（日）12：30 頃 今治到着

活動者：5 名



「下増田児童センター」を訪問。震災後、福島からの転校生も多く、児童が増えている小学校の放課後児童クラブ。小学生 120名と交流。タオルのプレゼントを喜んでもらった。



中学生の多くが犠牲となった関上(ゆりあげ)中学校。遺族によって、毎年3月11日は、中学校前の通学路で「絵灯籠」による追悼が行われていた。5年目を迎える今年は、名取市の中心部(名取市文化会館/公式追悼式典会場)において、「絵灯籠」を並べての追悼が行われることに。紙で灯籠をつくり、メッセージを書く作業から参加させていただいた。



「美田園サロン」を訪問。仮設住宅を出て、極端に見守り活動が少なくなる高齢者への対策として、行政の委託事業として開所しているサロン。この日は30名の参加を得て、タオル体操などを通して、交流活動を行った。この活動をコーディネートくださった「防災教育の市民団体ゆりあげかもめ」メンバーも同席。「ゆりかもめ」は関上(ゆりあげ)地区の被災の様子を語り継ぎ、遺構を守る活動をしている。



交流後は、一緒に手づくりランチ会。会食が始まると、震災前・震災当日・震災後の様子をお話してくれる。以前は話せなかったこと…とおっしゃる方も多く、心理的な変化を感じた。

※定款上、「その他の事業」は実施しなかった。

3. 会議に関する事項について

(1) 総会

①第14回通常総会

日時：平成27年4月28日（火）19：30～
会場：今治市民活動センター 大会議室
議題：2014年度事業報告・収支決算報告
2015年度事業計画・収支予算の件

(2) 理事会

①2015年度第1回理事会

日時：平成27年4月28日（火）19：00～
会場：今治市民活動センター 大会議室
議題：2015年度事業計画・収支予算の件
役員・有給役員の件
総会に付すべき事項の件

②2015年度第2回理事会

日時：平成27年5月21日（木）12：30～
会場：今治市民活動センター 大会議室
議題：理事長選任の件
今治市民活動センター事業「出張相談会」の件
今治市民活動センター事業「NPO現場体験ツアーvol.1」の件

③2015年度第3回理事会

日時：平成27年7月28日（火）12：30～
会場：今治市民活動センター 大会議室
議題：今治市民活動センター事業「NPO現場見学ツアーvol.2」の件
委員会・審議会への参加の承認

④2015年度第4回理事会

日時：平成27年12月25日（金）18：30～
会場：蒼空
議題：今治市民活動センター事業の進捗状況報告

⑦2015年度第5回理事会

日時：平成28年3月28日（月）12：30～
会場：今治市民活動センター 大会議室
議題：2016年度事業計画・予算
2015年度総会報告事項
役員の件